

知りたかった情報をお届け

第31号

豆知識通信

「ほんとはどうなの?」「どこで聞けばいいの?」ちょっと聞きづらいけど知りたい! そんな疑問、質問にお答えする豆知識通信。ちょっとだけ、あなたのお力になります。

Q 1 お通夜について詳しく教えてください。

A 1 お通夜についてお伝えします。下記をご覧ください。

通夜とは古代の殯(日本の古代に行われていた葬送儀礼で、死者を埋葬するまでの間、遺体を棺に納めて仮安置すること)の遺習であるとか、臨終の際の看病の延長にあるものであるなどと言われています。夜伽とも言われ、夜を徹して死者を見守ります。しばしば死者の枕元でお経が読まれ、念仏が唱えられました。夜を徹してと言われていますが、現代では遺族の心労などを配慮して寝てはいけないということはありませんのでご安心ください。

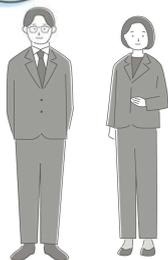
【葬儀概論より引用】



死とは法律的には「心停止」ということですが、遺族や身近な人たちにとってはすぐに受け入れられることではありません。そこで、夜を徹して死者の枕元に侍り、生きているときと同じように仕えます。ある意味では、死者と最後に過ごす大切な時間であると言えます。

また、この長野地域では、お骨にしてから葬儀をするのが一般的ですので、故人様のお姿とお別れできるのもこの通夜のお時間(出棺まで)が最後となります。その為、通夜のお時間を大切に、しっかりとお別れをしていただきたいと思います。

【お通夜の服装について】

ちょこっと
ためになる情報

近年では、お通夜の際にも遺族・関係者だけでなく一般参列者や弔問客も喪服(ブラックフォーマル)を着用する方が多くなりました。

しかし、《喪服》は喪に服すときに着用する着物として着用するものですので、生と死の境界線上に位置付けられる通夜では喪服の着用はふさわしくないとする考え方や喪服は故人の死を予期してあらかじめ準備していたという印象を与えるという考え方もあり、特に弔問客の場合は、略喪服や派手でなく、きちんとした服装であれば問題ないとされています。

※服装については、豆知識通信26~28号でもご紹介しています。

次回以降もお葬儀に関する豆知識をお伝えしていきます。

★ひのいわ葬祭では、無料の事前相談を行なっています。
気になることがございましたら、お気軽にご相談ください。

日野岩葬送会館 想樹の杜

☎ 0120-122-866

✉ info@hinoiwa.com